

# あすの企業を考える

— 本社主催 —

日刊工業新聞は、経済産業省や日本商工会議所などの後援を得て、2016年度の新入社員を対象に「第39回フレッシュヤーズ産業論文コンクール」を実施しました。「あすの企業を考える」をテーマに企業の人材育成や社員教育をサポートするため毎年実施しているもので、本年度はI部（大企業）とII部（中堅・中小企業）を合わせ108社から828編の応募がありました。特徴的なのは、学生時代や就職活動の体験に基づき、顧客志向で創造的なモノづくりや人材育成、中小企業の役割などをテーマに自身の生き方や企業の針路を説いた秀作が目立ったこと。その中から経済産業大臣賞（I部第一席）、日本商工会議所会頭賞（II部第一席）をはじめ14編の優秀論文を紹介し、表彰式は21日、都内のホテルで開催します。

2016 第39回

# 「フレッシュヤーズ産業論文コンクール」

## 多様性に向き合い課題を解決

「多様性（ダイバーシティ）」は未来を切り拓くキーワードである。例えば、女性活躍促進、外国人活用、グローバル人材、異文化。ところが均一性は慣れ親しんできた日本では、こうしたダイバーシティが様々な壁にぶつかってしまふ。世界に目を向けられ、ダイバーシティはイノベーションの駆動力に活かされている。世界に伍し



## I部・選考短評

審査委員長 相澤 益男氏  
(科学技術振興機構顧問)

「あすの企業」を掲げているからである。最終審査は例年になく議論が白熱し、膠着状態がしばしば続いた。それぞれの作品がユニークな切り口で課題を浮彫りにし、その解決に迫る筋書も巧みだ。そのうえ論文の構成力と表現力の水準も高い。しかしインパクトの

て勝つ残るには、「受身のダイバーシティ」から脱却し、「ダイバーシティ」を活力の源泉に転化していくことが重要。こうした想いを強くして最終審査に臨んだ。というのも美に数多くの作品がダイバーシティの観点から「あすの企業」を掲げているからである。最終審査は例年になく議論が白熱し、膠着状態がしばしば続いた。それぞれの作品がユニークな切り口で課題を浮彫りにし、その解決に迫る筋書も巧みだ。そのうえ論文の構成力と表現力の水準も高い。しかしインパクトの

## 奨励賞

- ▷ゆとり社員の育て方=大久保吉崇（日本電設工業）▷企業と社会モラル=児玉裕亮（ADEKAクリーンエイド）▷企業人に求められる意見を引き出すプレゼンテーション=佐藤志野（JNC）▷組込みシステム開発における品質向上に向けて=山下大貴（コア）▷IoTを活用したビジネスモデル=清水翔太（日本電産）▷オムニチャネル化と物流戦略=柴田祐希（日立物流）▷将棋に学ぶ、これからのヒトとAIのあり方=小林隆貴（日本バルカー工業）▷第四次産業革命に向けての初等・中等教育におけるプログラミング教育必修化の効果=森本純（富士ゼロックス情報システム）▷後継者不在問題を解決するために=高橋秀典（NECトーキン）▷リーダーから始める良い雰囲気作り=尾崎達哉（ヤマハ発動機）▷自動化が進む中で人間がやるべきこと=鈴木智哉（TYK）▷ドイツ企業に学ぶ製造業のあり方=郷原一徳（TYK）▷これからの企業が目指すべきダイバーシティのあり方とは=北村彩乃（スギノマシン）▷産学連携のあり方=河面実宅（キャリア技研）▷産学連携のあり方=後藤裕介（キャリア技研）▷日本製造業における第4次産業革命~IoTを駆使し競争力を高めるために~=板垣亮平（日阪製作所）▷女性の活躍から考える柔軟なキャリア形成の実現=西川千尋（バンドー化学）▷日本のインターンシップ制度について=鳥越円加（センコー商事）▷新入社員の「見える化」活動=土谷晃史（モリタエコノス）▷企業と工業高校生=向井貴志（西島製作所）▷グローバル化における経営戦略と組織のあり方=渡邊圭吾（栗本鐵工所）▷日本人の仕事と育児のバランス=藤原圭祐（富士通九州システムサービス）

## 組織・人材育成に鋭い指摘

## II部・選考短評

審査委員長 橋本 久義氏  
(政策研究大学院大学名誉教授)



その点、フレッシュヤーズは理想的な外部専門家の存在が、門外漢のような存在といえるだろう。組織で動いているから、組織の詳細を知っているだけ、フレッシュヤーズは、組織の美態に近づくまで見えない。私も外部審査委員に依頼されたことがあるが、会議の直前に分厚い資料を渡され、エライ人の退屈なキレインの説明を聞かされて、「何をわかれとうのか!」といつも不満を抱いている。フレッシュヤーズは、社内の問題を、愛情を持って見ることが出来るだろう。今回の論文にもフレッシュヤーズにもフレッシュヤーズの業のあり方、人材の育て方について鋭い指摘があった。

## 奨励賞

- ▷せいひんかいはつやアフターサービス=ウォーレン・フー（金子産業）▷ガス業界に学ぶ真に求められる企業の条件とは=小野寺駿介（アポロガス）▷人手不足の問題を解決するロボット=市川華（タスクフォース）▷ロボットは社会の仕事量を削減させるか=原田裕樹（エム・ソフト）▷日本の未来を創造するオタク=保科雄一（東和エンジニアリング）▷震災を乗り越えて=榎本雄介（日立物流コラボネクスト）▷成熟市場を勝ち抜くためには=坂巻直（日本液炭）▷女性のライフステージを通して企業と働く女性の関係を考える=安藤早紀（貝印）▷社会全体で考える
- 日本の人口減少化=金城孝（ナレッジクリエーションテクノロジー）▷見えない顧客満足度~満足に絶対値はない~=小松芳彰（ヤマハモーターソリューション）▷チームにおける責任感の必要性=佐藤洋志（ヤマハモーターソリューション）▷企業の災害対策について=小山内智也（MCOR）▷燃費不正問題から考える倫理観=祖父江良（MCOR）▷「昔ながら」が持つ問題と、その解決策=奥原雅也（カイインダストリーズ）▷会社への帰属意識=菅野雅史（エヌティーツール）▷「あす」を生き抜くための（戦略的）採用プロセス=大久保貴恵（河合電器製作所）▷産学連携のあり方=高島浩人（キャリア技研）▷日本企業における雇用の流動化=村本信也（エイチアンドエフ）▷医療を通じてサービスを考える=田中健斗（鶴原製薬）▷笑顔という名の武器について=鳥塚美弥（千成亭）▷日本の経営とグローバル化=中川友喜美（大塚環境）